

## 授業展開案 高等学校地理歴史「日本史 B」

## 1 テーマ

寛永期の文化

## 2 I C T 利活用のねらい

寛永期の文化についての学習において、文化財を鑑賞する場面を設定する際に、マクロを含んだ PowerPoint を活用することで簡単に画像をスライドに貼り付ける等授業の準備を効率的におこなうことができる。また、授業において即座に絵画等の資料を提示したり、屏風絵を立体視させたりすることができる。

## 3 利活用する I C T 機器及びソフトウェア

①機器：電子黒板

②教材：「資料提示作成.pptm」(Microsoft PowerPoint 2010 VBA)

「寛永期の文化(サンプル)」(Microsoft PowerPoint ※「資料提示作成.pptm」で作成したサンプルファイル)

「屏風絵の鑑賞.pptm」(Microsoft PowerPoint 2010 VBA)

「屏風図形の高さ算出」(Microsoft Excel)

## 4 I C T 利活用の場面

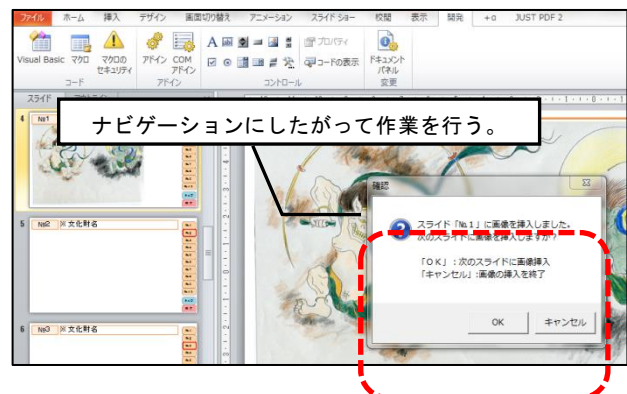
学習内容	I C T 利活用の場面
文化財を鑑賞する。 ・絵画, 工芸, 建築等 ・屏風絵の鑑賞	①授業の準備：マクロを含んだ PowerPoint を活用して文化財の画像をスライドに貼り付ける。  ②説明の補助：電子黒板に作成したスライドを表示する。

## 5 I C T 利活用のポイント

## ①授業の準備

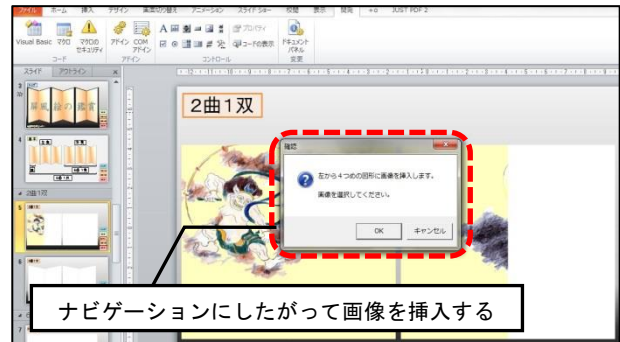
教材作成にあたって「資料提示作成.pptm」「屏風絵の鑑賞.pptm」(Microsoft PowerPoint 2010 VBA)を活用する。

まずは「資料提示作成.pptm」で「寛永期の文化の文化財」を作成する。ナビゲーションにしたがって、「タイトル入力」



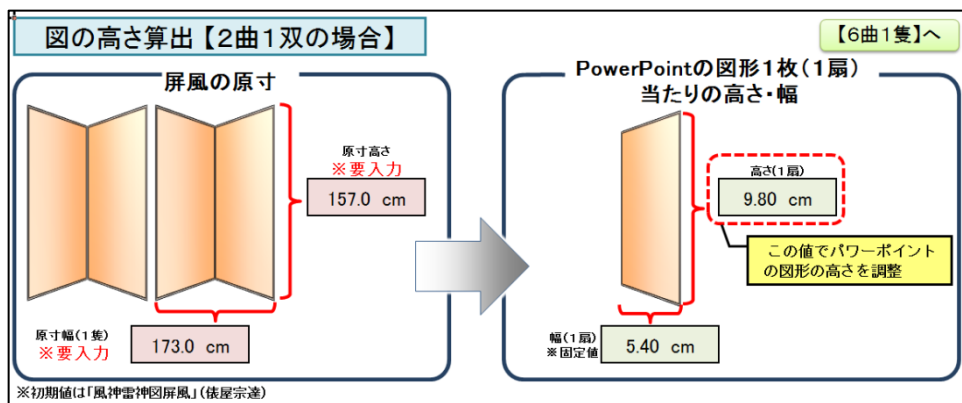
「画像の挿入」「文化財名の入力」等の作業を行い、名前を付けて保存をする。合計 10 枚の画像資料をスライドに貼り付けることができる。

次に「屏風絵の鑑賞」のスライドに屏風絵に画像をナビゲーションにしたがって貼り付ける。1 扇相当の図形の高さについては、2 曲 1 双（スライド 5・6）が「風神雷神図屏風」、6 曲 1 隻（スライド 7・8）が「唐獅子図屏風」の原寸比と同じ縦横比に設定してある。もし上記以外の屏風絵の画像を挿入する場合は、「屏風図形の高さ計算」（Microsoft Excel）で 1 扇あたりの高さを計算して、図形の高さを調整する必要がある。（横幅を操作すると図形の位置を合わせ直さなければならないので変更しないこと）

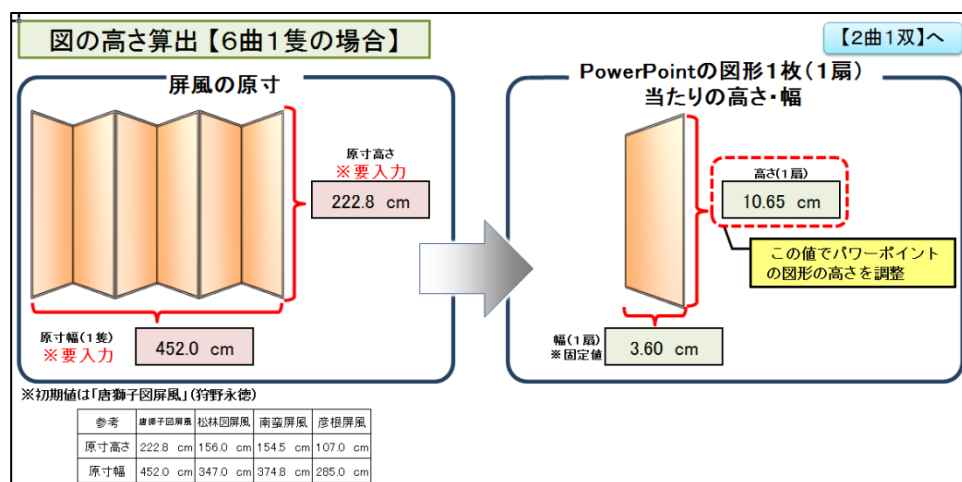


※参考：1 枚の図形の高さ（「屏風図形の高さ算出」（Microsoft Excel）で算出）

● 4 扇（2 曲 1 双等）の場合



● 6 扇（6 曲 1 隻等）の場合



②説明の補助

作成した PowerPoint 教材を用いて、電子黒板に文化財を提示して説明する。「屏風絵の鑑賞」については、屏風を曲げて立体視させることができる。